せんぱいママコラム

MAMA COLUMN

公園デビュー！のプレッシャー

最初の子が生まれたとき、周りでは「公園デビュー」と言う言葉をよく耳にしました。今では「ママ友」などもよく聞きますが。その頃は、自分の子が公園デビュー出来る日を心待ちにしていました。少し大きくなって動きも出てくると、いよいよ母子ともに公園デビューだと、おやつや飲み物、オムツや着替え、色々なハプニングに備え準備して出かけましたが、その日、公園には、誰もいませんでした。子どもは喜んで遊んで満足していましたが、母は少しがっかりです。もしお友達がいたら自分もお母さんたちと話しが出来ると思っていたので、次は時間を変えてみようとか、違う公園に行こうかとか考え出すと、出かけるのがプレッシャーになっていました。でも、子どもはそんなことは全く構いなしでした。（おかやまプレーパークスタッフ）

Date / / /

MAMA COLUMN

一番めは慎重屋、二番目は怖いもの知らず

上の子はビビリである。すべり台は一緒にすべったし、アスレチックに昇る時は一緒に昇って下からお尻を支えた。下の子は恐い者知らずである。歩けないうちはハイハイですべり台に昇ってすべり降りていたし、ジャングルジムの高いところに昇って失敗し、間をすり抜けて下まで落ちたこともある。その頃幼児が昇るには高かったこどもの森のアスレチックも県営グラウンドのジャングルジムもいつの間にか無くなってしまった。新しくなった遊具は小学生が遊ぶには低くておもしろくないのではと思うようなものになってしまった。秋には遠足の子ども達がたくさん来ているのに。

公園は幼児だけが遊ぶところなのだろうか。上の子が小さかったころ「公園デビュー」という言葉が飛び交っていた。ほかの子どもと遊ばせたくて公園に行くのだが、すでに出来上がっているグループの輪に入れなくて悩んでいるお母さんの話題を聞いた。私も我が子を他の子どもと遊ばせたかったし、自分自身も他のお母さんとおしゃべりしたかった。けれど、人に混じることが苦手な上の子は誰もいないところで遊ぶことを好み、なかなか望みどおりにはならなかった。

公園デビューは必要だろうか。あまり気にしなくてもいいと思う。経験から言えば、放っておいても時期が来れば人と混じることも、ちょっと危険な遊具を扱うことも出来るようになる。おおらかな気持ちでいるのが一番！

（おかやまプレーパークスタッフ）

MAMA COLUMN

下の子は、遊ぶ場所があった

最初の子どものときは、遊ぶ場所は、コーポのテラスか前の駐車場、または近くの公園が主流でした。親と1対1の遊びで、小さいときはそれでも良かったのですが、だんだん飽きてお友達が必要になりました。ところが、近くの公園に行ってもなかなか同じ年くらいの子どもさんが居なくて、近所でもなかなかで会う機会がなく、下の子が生まれました。そのうちに幼稚園に行く年になりお友達も出来、幼稚園で遊ぶことが日課になり、気が付くと下の子は、何の心配もなくその中に混じって遊んでいました。最初の子と下の子では、遊ぶ環境も親の意識もかなり違っていることに気付きました。

（おかやまプレーパークスタッフ）

無類の水遊び大好き息子

息子は幼い頃から水が大好きです。幼稚園の就園前体験に行ったときには、園庭の水場に置かれた水を受ける入れ物の中に体ごと入り、1人だけずぶ濡れで帰りました。雨の降った後には、どろんこ遊び。もちろん泥だんごも庭のどこの砂が一番うまくぴかぴかにできるかよく知っていました。川辺に行ったときには、深さも確かめずにじゃぶじゃぶ川に入り、危うく溺れそうになりお友達のお父さんが慌てて引き上げてくれました。川にいる魚や小さい昆虫も好きなので、川があればのぞき込み、這いつくばり、何がいるかチェックを念入りにします。なので気がつけば網と長靴と着替えは必需品になりました。親も子どもの成長と共に成長させられます。最初はまた濡らした!と思っていましたが、どんなに濡れてもまあ着替えればいいかと思えるようになりました。それよりも体験から水の大切さや怖さを自然に身につけられ、親も自然を見る目が養われました。今では中学生になりましたが、いつまでもずぶ濡れ時代が続くわけではありません。でも今でもやっぱり雨と川が好きです。（おかやまプレーパークスタッフ）

MAMA COLUMN